

災害に負けない、大阪市の水道

配水場とは？

平成29年10月31日
4都市水道局合同防災訓練

「配水場」はじょう水場でつくられた水をたくさんためる施設です。大きな地しんにおそわれて、水道が一時的に使えなくなっても、市内に水を送り出したり、応急給水の水げんとして大切な役わりを果たします。

大阪市内には現在、配水場が9か所あります。この水を給水車で、まわりの学校や公園にとどけます。この「配水場」を大阪市内にバランスよく配置して、いざという時のために準備を行っています。

長居配水場は、その配水場のひとつです。阪神・淡路大震災（平成7年1月17日）をきっかけとして、平成16年に建設されました。

ふだんは…

配水池は、自由広場から約6mの地下にあり、4万2千 m^3 の水をためておくことができます。ここから、1日最大14万 m^3 の水を大阪市の南部方面に送り出しています。

災害の時は…

配水池から直接水道水をくみあげ、自由広場で応急給水（りん時に水を配ること）します。また、給水車が地下にもぐり、配水池の水をくんで近くのひなん所に運びます。

◆長居配水場断面図◆



他の都市との助け合い

大きな災害が起き、多くの場所で水道管がこわれるなどのひ害が出ると、大阪市の水道局だけでは、すぐに直すことができず、また、広いはん囲で水をりん時に配ることもむずかしくなります。

そんなときのために、神戸市、福岡市、東京都など、他の都市に応えんしてもらえるよう、全国で助け合う約束をしています。また、定期的に訓練を行い、もしもの時にしっかり備えています。

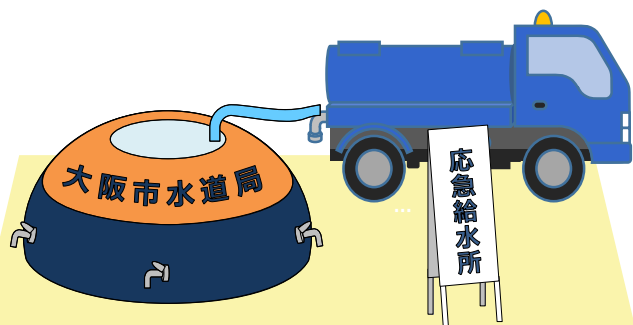


応急給水の方法

大地震が発生し、水道管がこわれるなどのひ害が出た場合、ご家庭に水をとどけることができなくなります。水が飲めなくなると、人のいのちにも危険がおよびます。地震直後の飲み水や生活に必要な水を、その時々に必要な量の水でとどけることができるよう、みなさんの近くの学校や公園などにりん時に水を配る場所（応急給水所）を設置し、次のような方法で水を配ります。

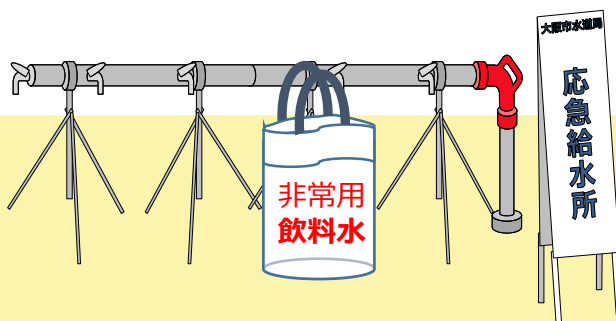
断水している場所には・・・

仮設水そうを設置し、給水車で飲み水をとどけます。



水道管から水が出る場合には・・・

仮設給水せんを消火せんを設置し、じゃ口から飲み水が出るようにします。



水道管の応急復旧工事

応急復旧とは、地震などの大きな災害により、ひびが入るなどこわれた水道管を復旧する（元にもどす）ことです。水道管がひ害を受けると、みなさんの各ご家庭に水を届けることができなくなります。

このため、ひ害を受けて水がもれた場所をさがし、下の写真のような方法で、復旧（修ぜん）を行います。



◆応急復旧（修ぜん）の一例◆



①水道管から水がもれている場所を発見！



②「割継輪（わりつぎわ）」という輪っか状の金具を、水がもれている場所に取り付けます。



③割継輪（わりつぎわ）を固くしめて、水もれを防止します。これで修ぜんできました。